



「勉強できる幸せ感じた」

八戸

SYD、貧困テーマに講演 光星生、比の現状知る

八戸市の八戸学院光星高校(小野崎龍一校長)で12日、社会教育団体「修養団」(SYD、東京都)による子どもの貧困をテーマにした講演会が開かれた。同校普通科特別進学コース、医療看護進学コースの1、2年生41人が、路上やごみ捨て場で生活するフィリピンの子どもたちの現状を知り、恵まれた環境で生活できることに感謝した。

SYDは毎年、フィリピンに日本の中高生らを派遣し、現地子どもたちと交流したり支援活動を行っている。SYDによると、フィリピンには生きるために

青木常務の前で講演会で感じたことを発表する生徒

物乞いするストリートチルドレンや、ごみ捨て場にトラックを建てて資源ごみを拾って生計を立てる子どもたちが多くいるという。

同日はSYDの青木富造常務理事が、スライド写真や映像とともに現地の実態や支援活動を紹介。「子どもたちは食べること、生きることが何より重要。皆さんは、他人の苦しみを自分のことのように考えられる豊かな心をもってほしい」と訴えた。

医療看護進学コース2年の佐京柚奈さんは「おなかをすかせた幼い子どもたちが、配られた弁当を家族のために持ち帰るということを聞いて驚いた」、特進コース2年の久保千尋さんは「勉強が嫌になることもありますが、学校に通い勉強できることが幸せだと感じた」と話した。

(小橋徹)